



栃木市マスコット  
キャラクターとちぎ

# 農業委員会だより

# とちぎ

2015.6.15

第4号

発行/栃木市農業委員会

編集/農業委員会だより編集委員会

電話/0282-21-2393



## 都賀町升塚の獅子舞

毎年五月三日の雷電神社と、十一月三日の愛宕神社あたごの祈年祭が開催されます。

この時奉納される、文挟ふはさき小流獅子舞は、四百年ほど昔、日光東照宮祭礼の地固めの際に奉納されたと言い伝えられています。

升塚の獅子舞は、約十年に一度、小学校四・五年生から男子六名を選び、新稽古(\*)に立て、後継者の育成が始まります。

【\*新稽古II「新人」という意味】  
新稽古から約十年、獅子舞いの舞子を務めると、今度は囃子手となり、指導者として後継者を育成する側に回ります。こうして代替わりしながら、若い人たちに伝統が受け継がれてきました。

今年で五年目を迎えた現在の獅子舞は、中学生になり力強くたくましく、訪れた観客を魅了していました。

《協力/升塚獅子舞保存会 広瀬和央様》  
《取材/手塚政子 委員》

## 目次

- 大雪被害の今 ..... p2
- おしらせ ..... p3
- 中間管理機構と農地台帳  
の公表について ..... p4
- 専門委員会の活動  
「なでしこ委員会」 ..... p5
- 頑張ってます！  
Agrist(あぐりすと) ..... p6

# 雪害を受けた農業者の現状

## 雪害を乗り越えて

《トマト農家 松本 勲さん》

《いちご農家

泉田 格さんいたる》

去年二月一五日、前日からの積雪は四〇センチとなり、七〇〇坪の連棟ハウスとトマト約四〇〇〇本を押し潰しました。収穫予定の二割しか収穫しておらず、茫然としましたが、怪我人が無かったのが救いでした。

行政や農協等の支援もあり、この度ハウス再建の運びとなり、この場を借りて御礼申し上げます。借金を返しながら、元気に農業を続けて参ります。

(取材/牛久秀一 委員)



降雪で連棟ハウスが崩壊した二日間は、茫然としていましたが、次の日から親戚や友人の力強い手伝いで、壊れたハウスを片付けることができました。農協の貸付制度も利用し、資材が届いた九月より再建し、今年もいちご栽培を頑張っています。

(取材/手塚政子 委員)



再建したトマトハウス

### 雪害の再建状況について

ぶどう栽培ハウスの再建にあたっては、国庫補助事業である「被災農業者向け経営体育成支援事業」を活用しました。

交付申請者数…57戸

○撤去のみ…15戸/面積 約4.4ha

○撤去及び再建、修繕を行う経営体数…42戸

再建の面積 約7.7ha/修繕の面積 約2.5ha

このことから、約95%の農家が補助事業に取り組むことになり、そのうち、約80%の農家が、ぶどうの栽培を継続することになります。

なお、当補助事業は、営農を継続することが採択要件となり、施設の撤去のみの農家においても、他の作物で営農を継続することになります。

また、今回被災により、敷地に合わせて建設していたハウスを、作業効率の良い四角形にしたため、結果的に栽培面積が縮小したケースや、年齢的な問題から栽培面積を縮小したケースを合わせると、14.6haが縮小した結果となります。

なお、再建が遅れているケースについては、事業費の繰越等の手続きを行うなど、確実に再建が進むよう市としても努めてまいります。(農林課 振興チーム)



再建したいちごハウス

平成二十七年年度 建議・要望に対する市の主な取組状況

① 担い手の確保と支援について

農業担い手への支援として、市単独事業の新規就農サポート事業補助金については、平成26年度より補助金一人当たり10万円から30万円に拡充しています。

また、認定農業者等への支援として、国庫補助事業の経営体育成支援事業や攻めの農業実践緊急対策事業、県単独補助事業に採択されるよう、事業概要の説明会を実施し、希望者へのサポートを実施しています。

さらに、生産者の所得向上と、とちぎ小江戸ブランド農産物を広く周知するため、展示販売の拠点施設として「コエド市場」がオープンしました。

② 耕作放棄地対策について

担い手農家への農地集積と集約化を推進し、農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進めるため、栃木県農地中間管理機構が26年3月に創設され、農地中間管理事業が平成26年度新たにスタートしました。本事業は、高齢農業者のリタイア、さらに土地持ち非農家の増加に伴い拡大している耕作放棄地についても、軽減及び発生防止を目指し、将来の農地の適正管理を図るうえで極めて

重要な制度です。このようなことから、市では関係団体との連携を密にし、総力をあげて取組み、効果的かつ効果的な事業の推進に努めます。

③ 有害鳥獣対策について

鳥獣害対策としては、市では捕獲・駆除等を実施して、捕獲駆除数は確実に増加しているのに、被害が思うように減少していないのが現状です。更に、捕獲担い手の増加を目的とした「わな猟免許取得・更新支援事業補助金」と侵入防止柵等の「獣害対策設備設置費補助金」を平成27年度から制度拡充し、併せて有害鳥獣捕獲区域を拡大しており、今後も県・猟友会などと連携しながら、対策強化を図ります。

下野・上都賀両農業協同組合の理事の交替に伴い、農協選任委員が交替しました。



JAかみつが  
早乙女晴夫氏  
(西方町金井)  
☎ 92-8173



JAしもつけ  
阿部 秀夫氏  
(大平町下皆川)  
☎ 43-2666

「コエド市場」OPEN!

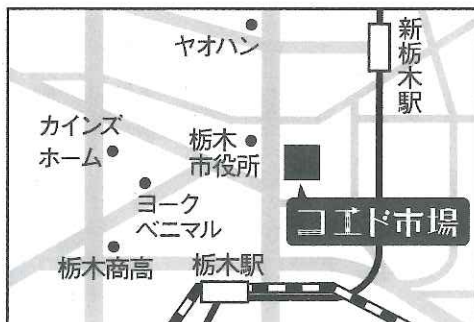
「栃木市の魅力あるとちぎ小江戸ブランド及び地域農産物を通じた中心市街地の賑わい創出」を目的として、蔵の街大通りに栃木市アンテナショップまちの駅「コエド市場」が4月27日(月)にオープンしました。当店舗は、観光のお客様はもとより、地域の住民や生産者の利便性を図り、魅力的な栃木市の食文化を「再発見」していただくなど、新しい栃木市、ふるさと栃木市の良さを「発信」し、本市の産業振興を促進していきます。店内では、とちぎ小江戸ブランド商品の他、店舗内のベーカーリー「小江戸のぱん屋さん」のパン、野菜などの農産物、農産加工品、花卉、乳製品、和洋菓子、酒類、お弁当、カフェ(ドリンク・ソフトクリーム・ジェラート・軽飲食)などを販売しています。

なお、当店舗で販売する農産物、特産品を随時募集しておりますので、ご興味のある方は、お気軽に店舗までお問い合わせください。

栃木市アンテナショップまちの駅



コエド市場



- 住所／栃木市倭町13-2
- TEL／0282-25-7411
- 営業時間／10:00~18:00
- 定休日／1月1日・毎週第2火曜日
- 最寄駐車場：蔵の街第1駐車場

(普通車 30台・大型 7台)

※500円以上お買い上げで無料、通常は30分毎に100円

あなたの農地をお預りします

農地中間管理事業の流れ



農地の貸借を進める新しい仕組みです。担い手への農地集積・集約化を推進し、地域の農地利用の最適化や規模拡大による農業経営の効率化を進めるため、農地の中間的な受け皿になる機関です。栃木県では、(公財) 栃木県農業振興公社が農地中間管理機構として、県の指定を受けています。

事業活用のメリットは？

公的な機関を通じた取組ですので、安心して貸付け・借受けが行えます。

賃料は機構から支払われ、契約期間が満了すれば、農地は確実に戻ります。納税猶予の適用農地の場合、納税猶予の適用が継続されます。要件を満たせば、機構集積協力金の交付を受けられます。

どのような農地が対象なの？

農業振興地域内の農地であり、機構の借受ルールに基づき判断します。

貸借期間は原則十年以上です。遊休農地や、利用が著しく困

難な農地等、貸付が見込めない農地は、借り受けできないことがあります。

お問い合わせ先・・・

(公財) 栃木県農業振興公社  
農地集積推進部

☎ 〇二八(六四九) 〇八一八  
または

栃木市農林課 農用地チーム  
☎ (二一) 二三八五

平成二十七年 度

全国情報会議表彰

○全国農業新聞情報活動表彰

全国農業新聞優秀農業委員会

団体表彰 栃木市農業委員会

情報活動功労者表彰

(農業委員の部) 16名

○平成二十六年普及拡張特別

優秀農業委員会表彰

(全国順位)

普及部数の部 第7位

農業委員数対比普及率の部 第9位

農家戸数対比普及率の部 第10位

農地台帳の公表について

農地法改正に伴い、平成27年4月1日より、農業委員会の窓口での「農地台帳の閲覧・公表」が義務付けられました。

これまでも、農地の確認等のためには、本人もしくは委任を受けた代理人等が、申請により「農用地明細表」等の交付を受け、利用されてまいりましたが、これからは、基本的な記載事項(\*)については、希望者には申請により窓口での閲覧用農地台帳の書面での「閲覧」、記載事項要約書の「交付」(有料)が可能になりました。(市街化区域の農地を除く) また、全国農業会議所の構築した「全国農地ナビ」

(<http://www.allis.ac.jp/>) が稼働し、インターネットでの農地の閲覧が可能になりました。  
\*公表することにより個人の権利利益を害するものその他公表することが適当でないものとして農林水産省令で定めるものを除く。

## 市議会報告会を終えて

栃木市女性農業委員6人の内、4人は市議会推薦の選任委員です。任期三年の中間という事で、去る二月五日、一年半の活動報告会の場を設けていただきました。

広い会場で、全市議会議員を前に発表する緊張感はなかなかのもので、ほかでは味わったことのないものでした。中でも女性6人で構成し、女性ならではの視点や発

想を生かした活動を目指す「なでしこ委員会」の活動には、議長から熱いエールをいただきました。これからも女性が安心して農業に取り組めるよう、私達自身も共に学びながら、指導にもあたりたいと思っております。

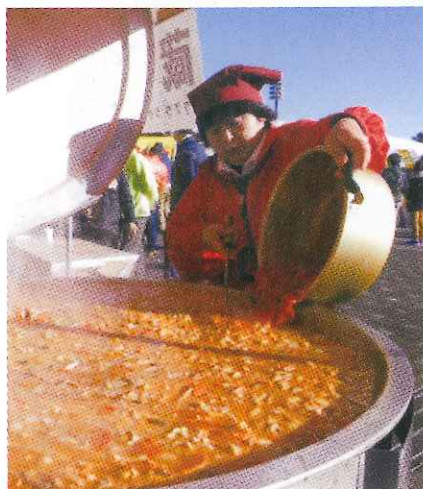
これまでの私達の様々な活動が多方面で認められ、さらに今後、女性農業者の農業委員への登用推進につながることを期待しています。  
〈毛塚玲子 委員〉

## 「蔵つこ鍋」に舌鼓！ とちぎアグリフェスタ

栃木地域で、毎年十二月に開催される『とちぎアグリフェスタ』。

農業委員会は、今年初めての試みで、直径一メートルの大鍋で六百食のスープ作りに挑戦しました。なでしこ委員が考案し、何度も試作を重ねた末に完成した、名付けて【蔵つこ鍋】は、地元食材を使った、トマト風味の豚汁です。

手作り味噌を溶かした中に、地元産の豚肉と大量のトマト、しいたけ、たまねぎ、にんじんなどの野菜をふんだんに使い、グツグツ二時間じっくり煮込んで、最後のかくし味に〈愛情〉を投入して完



成です。器に盛り付けるときに、ブロッコリーをいりどりに添え、トマトの持つグルタミン酸の旨味たっぷりの大鍋になりました。来場者にも、地産地消の取り組みの大切さを感じながら味わっていただけたいと思います。  
〈坂本敏枝 委員〉

## 《事例発表》

### 女性トッピーリーダー研修会

### 安足地区農村

6人の女性農業委員で構成されているなでしこ委員会の仕事は、農業委員としての仕事の他に、女性農業委員の活動として、家族経営協定の推進や、農業者年金加入促進のほか、地産地消や食育に関するイベントに参加出展したり、農業体験学習のお手伝いをしたり、昨年は、女性のための農業・肥料の使い方と熱中症予防の講座を開催しました。

「農家のおかみさん」6人の積極的な取り組みが評価され、県内外から講演や視察の依頼も来るようになり、三月九日、安足振興事務所から依頼され、トッピーリーダー研修会で、なでしこ委員の活動事例を発表してきました。  
〈岸 シツエ 委員〉



## 郷土料理を訪ねて



### 【筍（たけのこ）】

筍の成長は早く、味の変化も早いため、「湯を沸かしてから掘れ」と言われます。そのとりにすれば、お湯だけで、風味を最大限に味わうことができますが、実際に手元に届くまでには時間がかかってしまいます。そんな時はアク抜き。方法はいくつもあります。ぬかや米のとぎ汁が一般的ですが、重曹、唐辛子、お米、ワラというります。

さて調理法も様々です。昔から、真竹と新じゃがいもの煮物が、初夏の風物で季節の一品です。これを食べると盛夏の到来を感じます。竹のように真直ぐ力強く伸びて、暑い夏を乗り越えたいと思います。  
〈渡辺計子 委員〉

アグリリスト  
頑張ってます! Agrist (農・業・人)

ぶどうに<sup>こい</sup>♡して…家族で支え<sup>愛</sup>

☆家族構成と経営状況を教えてください。

家族は私たち夫婦と長女、両親、妹の6人です。専従作業には他に通年雇用2名、臨時雇用約10名で作業しています。経営状況はぶどう専業で、観光直販をしており、労働の平準化を図るため、加温ハウス、雨よけ露地栽培を行い、品種は巨峰を中心に、種なしピオーネ、シャインマスカット等30種類を220aで栽培しています。

☆昨年2月の記録的な積雪ではどのような被害に  
あわれましたか。

34aのハウスが全壊、18aのハウスが半壊しました。全壊のハウスではぶどう棚がつぶされ、ぶどうの樹も根元から裂けてしまい、全て一からのスタートです。行政や多くの方々の支援をいただき、ハウスの再建も無事終了。ハウスの中では若木が伸びだしてきました。



☆ぶどう栽培の魅力や苦労等は何ですか。

魅力は、家族で仕事ができることや、直売なので価格を自分で決めて販売できることです。苦労といわれれば、自然や天候に左右されることです。

☆美香さんは女性農業者として、特に活発な活動をされていると聞きましたが。

農業振興事務所や女性農士の応援をいただき、フレッシュパートナー講座(\*)で知り合った女性仲間と、しもつけ女子会(現在会員27名)を結成しました。

若手女性農業者で情報を交換しあい、相互支援活動を行っています。また、農林水産省の農業女子プロジェクト(\*)にも参画しています。

☆今後の目標を伺います。

家族4人が認定農業者であり、家族経営協定も締結しています。今後も栽培面積は現状維持で、消費者に喜んでいただける、質の良いぶどうを提供したいと日々努力しています。

新たな試みとして、六次産業にチャレンジし、ぶどうジュースを作るため、国に申請中です。

〈取材/石川和芳 委員〉



大平町 小林宏明さん・美香さん

編集後記

私たち農業委員の任期も残り1年余りとなってしまいました。編集委員会も委員の大きな役割であり、農業者・農村に関する情報や地域の声を発信していくため、皆様のところへ足を運び、地域に密着した人・経営・地域づくりに向けた活動を展開していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

大出陽子 編集委員長

(注釈\*)

\*フレッシュパートナー講座

下都賀農業振興事務所が主催する、次世代の担い手となる若手女性農業者を対象とした講座。同世代の仲間と学び、交流を図ることを目的としている。

\*農業女子プロジェクト

女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業のニーズと結びつけ新たな商品やサービス情報を社会に広く発信し、農業で活躍する女性の姿を多くの人に知ってもらうための取り組み。